

高知県長期漁海況予報

平成23年下半期(8～12月)の漁況・海況の予想

平成23年8月発行 高知県水産試験場

このたび、平成23年8月から12月を予測期間とした「平成23年度第1回太平洋イワシ・アジ・サバ等長期漁況海況予報会議」が横浜市で開催されました。独立行政法人水産総合研究センター、高知県及び関係都道府県等の最新の調査結果から長期予報が作成されましたので、高知県関係を中心にその概要をお知らせします。

予報の概要

海況

黒潮：都井岬沖では、8月前半と10月に接岸傾向、8月後半と11月には小蛇行の形成により離岸傾向となる。足摺岬沖～潮岬沖では、おおむね接岸傾向であるが、9月～10月と12月～1月には、都井岬沖の小蛇行の東進に伴い離岸傾向となる。

沿岸水温：「平年並」～「高め」で推移する。

漁況

サバ類： 前年を下回る

マアジ： 前年並から上回る

マイワシ： 前年並から上回る

ウルメイワシ： 前年並から上回る

* 詳しい内容については次ページ以下をご覧ください。

海 況

【海況の経過（平成22年12月～平成23年6月）】

1 黒潮

足摺沖では、12月上旬に「かなり離岸」であったものが、中下旬において「やや離岸」に転じました。1月は中旬に「やや離岸」となったほかは「かなり離岸」となりました。2月は中旬に「接岸」となったほかは「やや離岸」となりました。3月中旬から5月中旬までは「接岸」傾向で推移しましたが、5月下旬には「かなり離岸」となりました。その後、6月中旬になるまで、「やや離岸」で推移しました。6月末現在では「接岸」となっています。

黒潮流軸位置階級区分（足摺岬、室戸岬）	
階級区分	範囲（マイル）
接岸	<25
やや離岸	25、<45
かなり離岸	45、<65
著しく離岸	65

その後、6月中旬になるまで、「やや離岸」で推移しました。6月末現在では「接岸」となっています。

室戸岬沖では、12月は「接岸」傾向で推移しました。1月は上旬に「接岸」、中旬に「やや離岸」、下旬に「かなり離岸」となりました。その後、2月中旬から3月下旬にかけて「やや離岸」傾向で推移しました。4月上旬に一時的に「接岸」となった後、「やや離岸」傾向が5月中旬頃まで継続しました。その後、5月下旬に一時的に「接岸」となりましたが、6月末現在、「やや離岸」で推移しています。

以上のように、高知県沖における今期の黒潮は小規模な変動を示しつつ「接岸」～「かなり離岸」で推移しました。

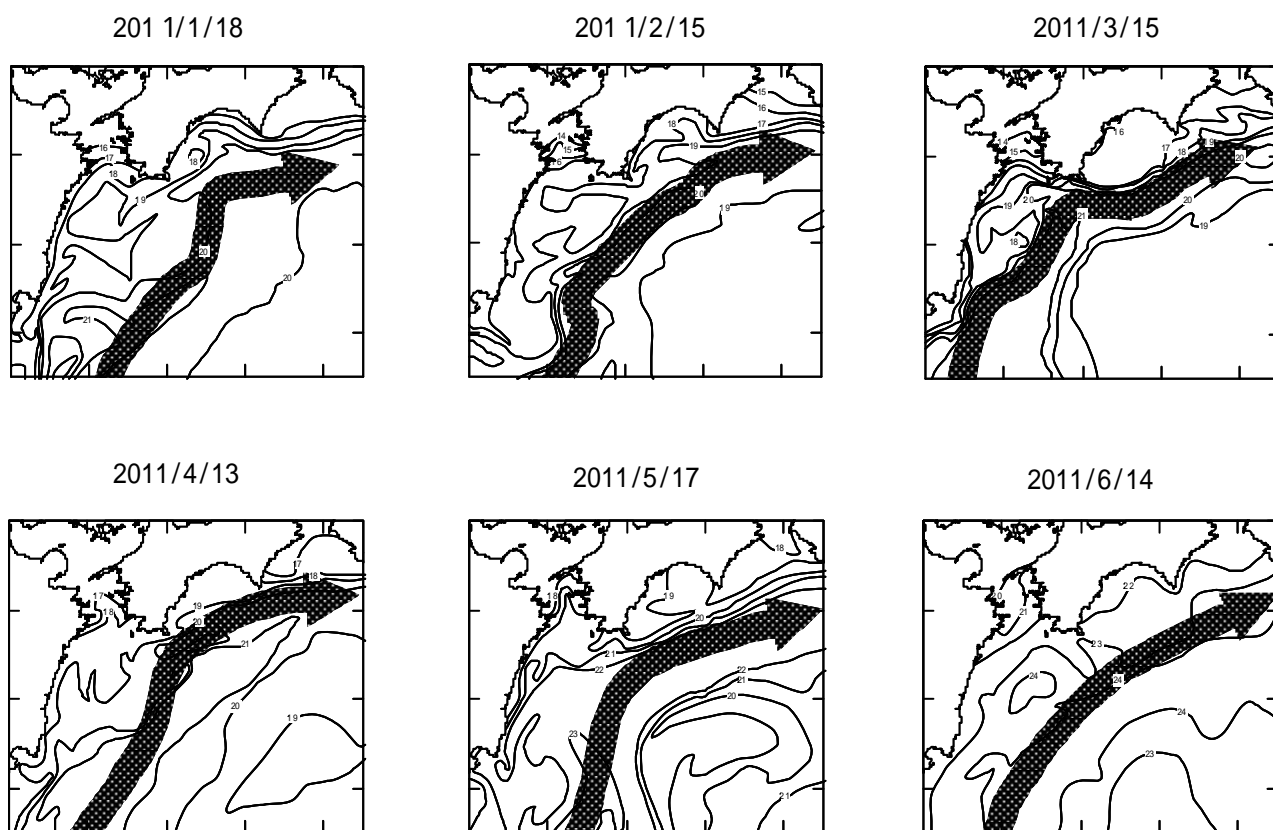


図1 NOAA 衛星海表面水温画像等から推定した黒潮流軸位置

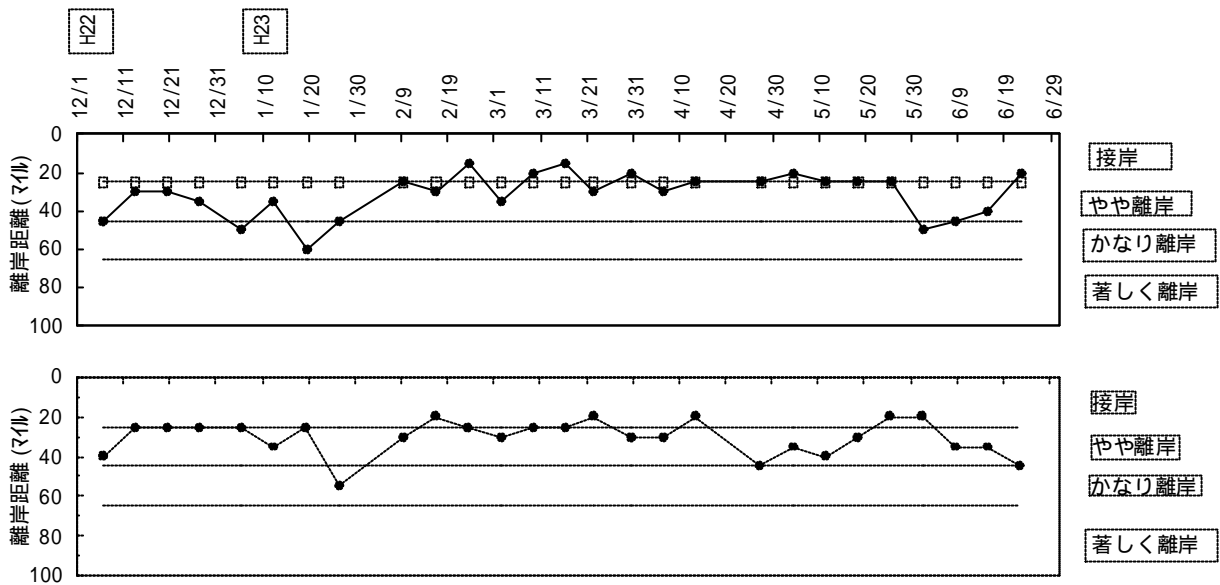


図2 足摺岬及び室戸岬からの黒潮流軸離岸距離（高知県漁海況速報より）

2 沿岸水温

沿岸定線調査による土佐湾沿岸域の水温は、12月に「かなり高め」、5月に「やや低め」であった他は概ね「平年並」でした。12月は0m層及び50m層において「かなり高め」、100m層で「著しく高め」、200m層で「平年並」でした。1月は全層で「平年並」でした。2月は200m層で「やや低め」であった他は概ね「平年並」でした。3月は0m層で「やや高め」、50m層及び100m層で「平年並」、200m層で「かなり低め」でした。4月は0m層で「やや高め」であった他は「平年並」でした。5月は0m層で「やや低め」、50m層及び100m層で「かなり低め」、200m層で「著しく低め」でした。6月は0m層及び100m層で「平年並」、50m層及び200m層で「やや高め」でした。

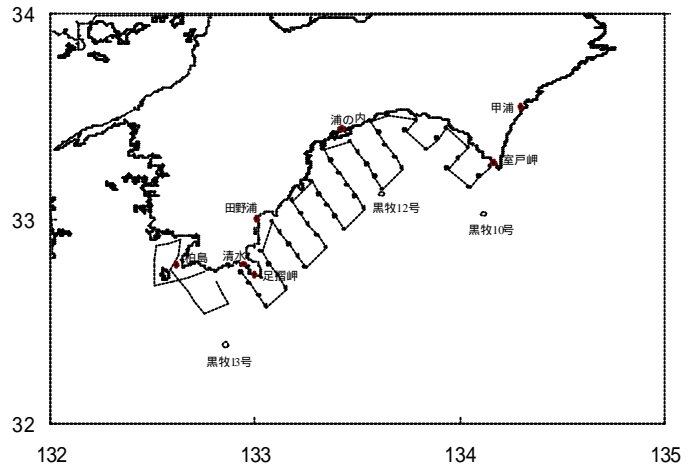


図3 土佐湾観測点

表2 土佐湾平均水温の平年偏差

水深	0m	50m	100m	200m
平成22年12月	++	++	+++	-+
平成23年1月	-+	-	-+	-+
平成23年2月	+-	-	-+	-
平成23年3月	+	-	-+	--
平成23年4月	+	-	-	-
平成23年5月	-	--	--	---
平成23年6月	-+	+	-	+

表3 土佐湾水温平年偏差の階級区分

記号	呼称・内容	偏差範囲
+++	著しく高め	2.2 以上
++	かなり高め	1.3~2.2
+	やや高め	0.6~1.3
+ -	平年並(+基調)	0.0~0.6
- - -	著しく低め	-2.2 以下
- -	かなり低め	-1.3~-2.2
-	やや低め	-0.6~-1.3
- +	平年並(-基調)	0.0~-0.6

3 特異現象

海況

- ・沿岸定線観測において、12月の100m層の水温が過去3番目の高水温を記録しました。また、5月の200m層の水温が過去2番目の低水温を記録しました。（1975年以降、欠測年あり）

漁況

- ・シラスウナギ漁が不漁
- ・室戸岬東側海域の大型定置網でメガマス（4～5m級）が相次いで入網（椎名大敷に3/14に1尾、三津大敷に5月初めに1尾）。
- ・足摺岬東側海域の大型定置網でマサバ好漁（前年比1,263%）

【今後の見通し（平成23年8～12月）】

1 黒潮

流型：潮岬以東の黒潮は、8～9月はN型基調で推移し、10月以降にB・C型流路となる見込みです。

四国沖の黒潮：都井岬沖では、8月前半と10月に接岸傾向、8月後半と11月には小蛇行の形成により離岸傾向となる見込みです。足摺岬沖～潮岬沖では、概ね接岸傾向であるが、9～10月と12～1月には、都井岬沖の小蛇行の東進に伴い、離岸傾向となる見込みです。

（根拠）

人工衛星による日本南方海域の海面高度データを利用した小蛇行の形成・発達・東進の予測手法によっています。

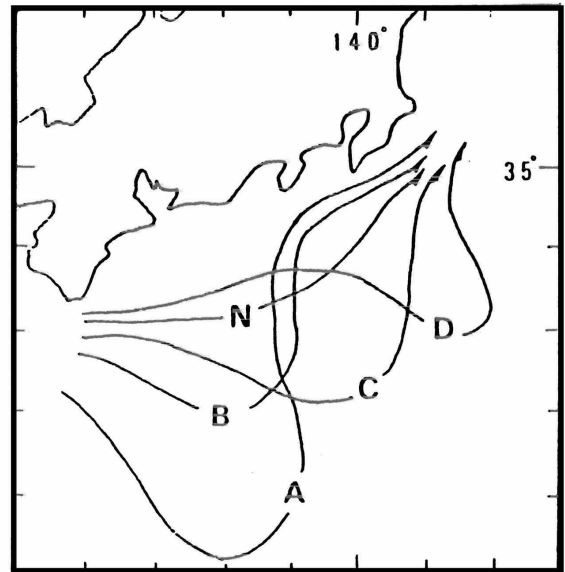


図4 黒潮の流型(吉田:1961、二谷:1969)

2 沿岸の水温

「平年並」から「高め」で推移する見込みです。

（根拠）

- ・高松地方気象台発表の「四国地方3か月予報」（6月23日発表、予報期間7～9月）によると、期間中の平均気温は「平年並」か「高い」となっています。
- ・近年、土佐湾の表面水温は高め傾向で推移しています。

漁 況

Ⅰ サバ類 (ゴマサバ及びマサバ)

【漁況経過 (平成 23 年 4~6 月)】

1 高知県

(1) 宿毛湾の中型まき網による漁獲量は 1,287.4 トン(以下、漁獲量は期間中の合計を示します)で、前年比 69%、平年比 90%(以下、平年とは平成 12 年から平成 21 年の 10 年間の平均値を示します)でした。漁獲物の体長測定結果によると、漁獲の主体は尾叉長 27~33cm のゴマサバでした。

(2) 定置網(窪津・椎名 2 水揚地合計)による漁獲量は 161.4 トンで、前年比 346%、平年比 147% でした。漁獲物の測定並びに定置網入網調査等の結果によると、漁獲の主体は東部がゴマサバ、西部がマサバでした。

(3) 釣(立縄・多鈎釣等、土佐清水・加領郷・室戸・甲浦 4 水揚地合計)による漁獲量は 146.2 トンで、前年比 66%、平年比 48% でした。魚体測定の結果、漁獲のほとんどはゴマサバで、前年同様 3 歳魚(平成 20 年生まれ)以上が主体でした。

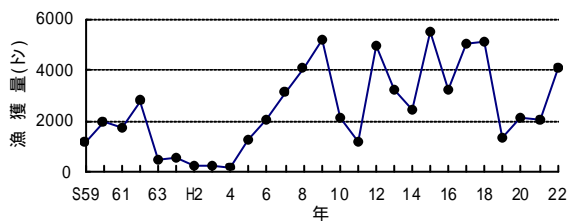


図 サバ類漁獲量の推移(中型まき網:宿毛湾)

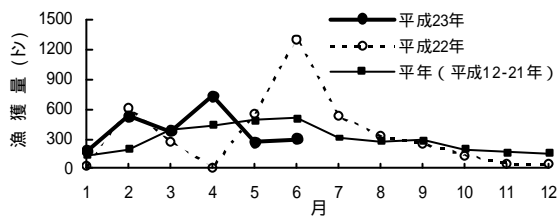


図 サバ類月別漁獲量の推移(中型まき網:宿毛湾)

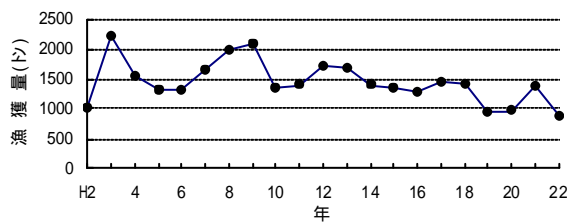


図 サバ類漁獲量の推移(清水・加領郷・室戸・甲浦:立縄等釣り)

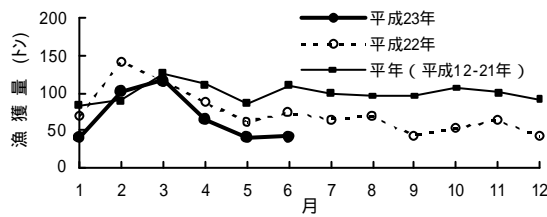


図 サバ類月別漁獲量の推移(清水・加領郷・室戸・甲浦:立縄等釣り)

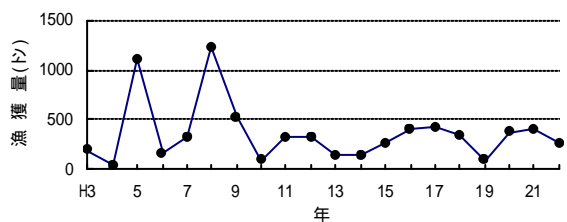


図 サバ類漁獲量の推移(窪津・椎名:大型定置網)

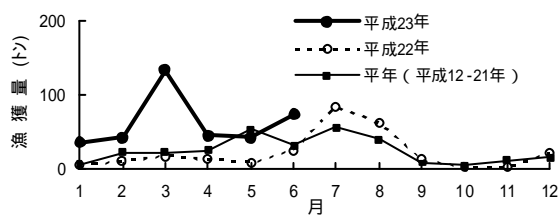


図 サバ類月別漁獲量の推移(窪津・椎名:大型定置網)

2 周辺各県の経過

宮崎県：日向灘のまき網による 1～6 月の総漁獲量は 7,170 トンで、前年比 92%、平年比 120% でした。

愛媛県：豊後水道のまき網では南部海域を中心に漁場が形成され、4～6 月の総漁獲量は 286 トンで前年比 27%、平年比 23% でした。

和歌山県：紀伊水道外域の 2 そうまき網による 1～6 月の総漁獲量はゴマサバ主体に 1,290 トンで、前年比 114%、平年比 94% でした。

【漁況予測（平成 23 年 8～12 月）】

(1) 漁獲対象：1 歳魚（平成 22 年生まれ）、2 歳魚（平成 21 年生まれ）、3 歳魚（平成 20 年生まれ）

(2) 来遊水準：

・ゴマサバ：1 歳魚は前年を下回るが、2 歳魚は前年を上回り、3 歳魚以上は前年を下回ります。全体の来遊量としては下回ると考えられます。

・マサバ：全体として低水準ですが、来遊量は前年並か前年を下回る見込みです。

(参考) 前年（平成 22 年）8～12 月のサバ類漁獲量

宿毛湾の中型まき網：798 トン

定置網（窪津・椎名合計）：98 トン

釣（立縄・多鈎釣等、清水・加領郷・室戸・甲浦 4 水揚地合計）：267 トン

説明：

ゴマサバ：高知県では 1～4 月の漁獲が好調だったことから、漁獲量は釣を除いて平年を上回りました。ゴマサバ太平洋系群の資源量は、1 歳魚（平成 22 年生まれ）と 2 歳魚（平成 21 年生まれ）が主体で、1 歳魚や 3 歳魚以上の資源量は前年よりも少ないと推定されていることから、高知県についても全体としては前年を下回ると予想しました。

マサバ：マサバ太平洋系群の包括的な資源量調査の結果、平成 23 年のマサバ資源量は 1 歳魚（平成 22 年生まれ）、2 歳魚（平成 20 年生まれ）が主体で前年並と推定されています。高知県では 4～6 月に西部定置網でまとまった漁獲がありましたが、平年よりも低水温で経過した海況が関連していると思われます。ここでの漁況予測は、これらを中心に、高知県の漁況情報を加味して、作成しました。

II マアジ

【漁況経過（平成 23 年 4～6 月）】

1 高知県

(1) 宿毛湾の中型まき網による漁獲量は47.2トンで、前年比171%、平年比16%でした。銘柄別では、150g以上の「アジ」が37.8トンで、前年比138%、平年比26%でした。150g未満の銘柄「ゼンゴ」は9.4トンで、前年比7,051%、平年比6.4%でした。

(2) 定置網（窪津・椎名 2 水揚地合計）による漁獲量は 194.1 トンで、前年比 565%、平年比 80% でした。

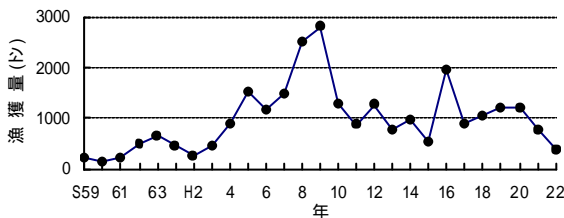


図 マアジ漁獲量の推移（中型まき網：宿毛湾）

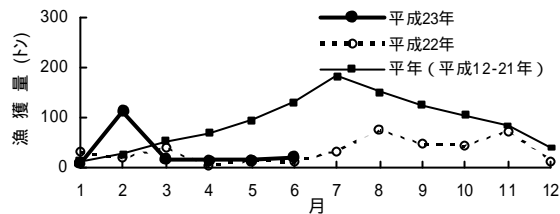


図 マアジ月別漁獲量の推移（中型まき網：宿毛湾）

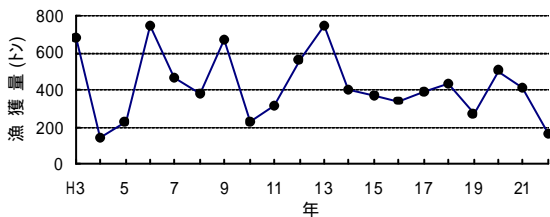


図 マアジ漁獲量の推移（窪津・椎名：大型定置網）

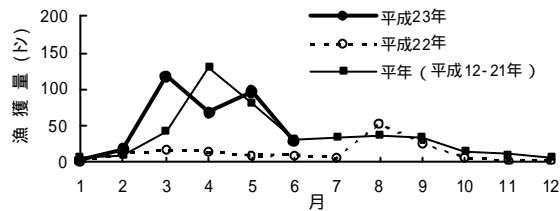


図 マアジ月別漁獲量の推移（窪津・椎名：大型定置網）

2 周辺各県の経過

宮崎県：日向灘のまき網による 1～6 月の総漁獲量は 390 トンで、前年比 182%、平年比 63% でした。

愛媛県：豊後水道では中部海域を主体に漁場が形成され、4～6 月の総漁獲量は 705 トンで、前年比 193%、平年比 49% でした。

和歌山県：紀伊水道外域 2 そうまき網による 1～6 月の漁獲量は 532 トンで、前年比 211%、平年比 42% でした。

【漁況予測（平成 23 年 8～12 月）】

(1) 漁獲対象：0 歳魚（平成 23 年生まれ）と 1 歳魚（平成 22 年生まれ）主体。

(2) 来遊水準：前年並から上回ると考えられます。

(参考) 前年(平成21年)8~12月のマアジ漁獲量

宿毛湾の中型まき網: 247 トン

定置網(窪津・椎名合計): 91 トン

説明:

マアジ太平洋系群の資源水準は「中位」、動向は「減少」と評価されています。予測期間中は0歳魚(平成23年生まれ)と1歳魚(平成22年生まれ)が主な漁獲対象となります。両者の本県における来遊水準と、近隣県の情報を考慮すると、本年下半期のマアジの来遊水準は前年並から上回ると推定されます。

III マイワシ

【漁況経過(平成23年4~6月)】

1 高知県

(1) 宿毛湾の中型まき網による漁獲量は154.3トンで、前年(0トン)を上回り、平年比202%でした。漁獲の主体は0歳魚(平成23年生まれ)でした。

(2) 定置網(窪津・椎名2水揚地合計)による漁獲量は19.5トンで、前年比24%、平年比56%でした。漁獲物の体長測定結果によると、体長10~13cm台の0歳魚(平成23年生まれ)を主体に、1歳魚(平成22年生まれ)以上も漁獲されました。

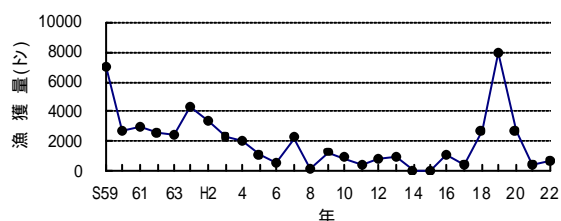


図 マイワシ漁獲量の推移(中型まき網:宿毛湾)

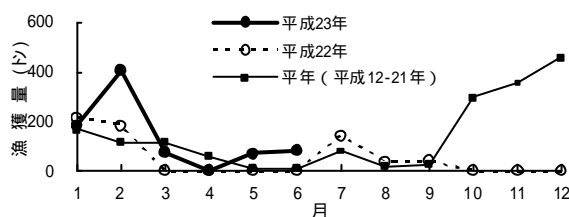


図 マイワシ月別漁獲量の推移(中型まき網:宿毛湾)

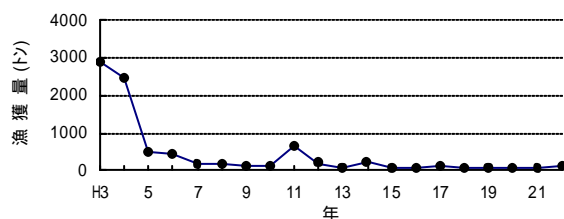


図 マイワシ漁獲量の推移(窪津・椎名:大型定置網)

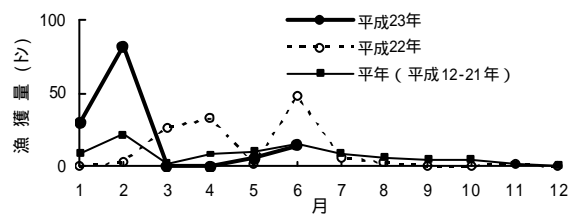


図 マイワシ月別漁獲量の推移(窪津・椎名:大型定置網)

2 周辺各県の経過

宮崎県：日向灘のまき網による1～6月の総漁獲量は913トンで、前年比1,200%、平年比109%でした。

愛媛県：豊後水道のまき網では南部を中心に漁場が形成され、4～6月における総漁獲量は1,207トンで前年(0トン)を上回り、平年比147%でした。

和歌山県：紀伊水道外域東部から熊野灘の1そうまき網による4～6月の総漁獲量は214トンで、前年比1,115%、平年比153%でした。

【漁況予測(平成23年8～12月)】

- (1) 漁獲対象：0歳魚(平成23年生まれ)主体。
- (2) 来遊水準：前年並から上回る来遊と考えられます。

(参考)前年(平成22年)8～12月のマイワシ漁獲量

宿毛湾の中型まき網：77トン

定置網(窪津・加領郷・椎名合計)：4トン

説明：

マイワシ太平洋系群の資源水準は「低位」、動向は「増加」と評価されています。本県における下半期の主な漁獲対象となる0歳魚(平成23年生まれ)は、高知県海域を含む各地で前年を上回る来遊水準にあると考えられます。また、本年の上半期に定置網などで散発的に漁獲された1歳(平成22年生まれ)以上の魚は少なく、来遊するとしても散発的と考えられます。以上のことから、予測期間中の来遊は前年並から上回ると予測されます。

IV カタクチイワシ

【漁況経過(平成23年4～6月)】

1 高知県

(1) 宿毛湾の中型まき網による漁獲量は137.5トンで、前年比10%、平年比34%でした。銘柄別では幼魚「ドロ」が63.5トンで、前年比43%、平年比48%でした。未成魚・成魚の銘柄「タレ」は74.0トンで、前年比6%、平年比27%でした。

(2) 定置網(窪津・椎名2水揚地合計)による漁獲は211.9トンで、前年比85%、平年比432%

でした。漁獲物の測定結果によると、体長 12～13cm 台の 1 歳魚を主体に漁獲していたと考えられます。

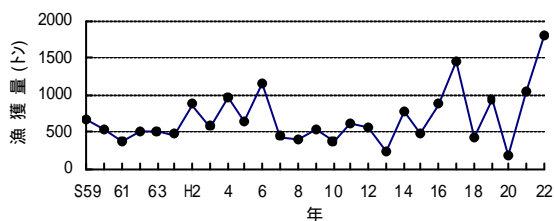


図 カタクチイワシ漁獲量の推移 (中型まき網：宿毛湾)

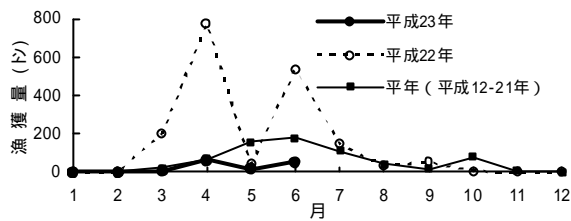


図 カタクチイワシ月別漁獲量の推移 (中型まき網：宿毛湾)

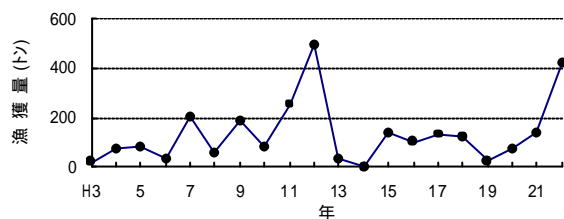


図 カタクチイワシ漁獲量の推移 (窪津・椎名：大型定置網)

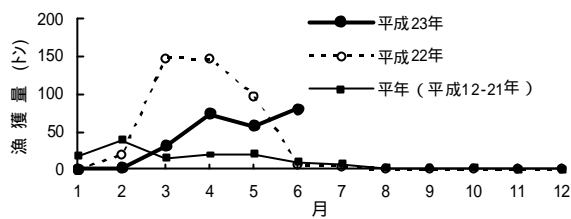


図 カタクチイワシ月別漁獲量の推移 (窪津・椎名：大型定置網)

2 周辺各県の経過

宮崎県：日向灘のまき網による 1～6 月の総漁獲量は 351 トンで、前年比 8%、平年比 15% でした。

愛媛県：豊後水道では中部海域を中心に漁場が形成され、4～6 月の総漁獲量は 477 トンで前年比 12%、平年比 43% でした。

和歌山県：成魚は主たる漁獲対象ではありません。

【漁況予測 (平成 23 年 8～12 月)】

高知県海域では、下半期に主たる漁獲対象にならないと考えられます。なお、鹿児島から豊後水道にいたる他県海域では、前年並から下回る来遊水準と予測されています。

V ウルメイワシ

【漁況経過 (平成 23 年 4～6 月)】

1 高知県

(1) 宿毛湾の中型まき網による漁獲量は 1,193.6 トンで、前年比 331%、平年比 169% でした。体長測定から、0 歳魚 (平成 23 年生まれ) と 1 歳魚 (平成 22 年生まれ) とともに漁獲していたと考えられます。

(2) 定置網 (窪津・椎名 2 水揚地合計) による漁獲量は 0.8 トンで、前年比 8%、平年比 3% でした。

た。定置網入網調査と体長測定から、0歳魚（平成23年生まれ）を主体に漁獲していたと考えられます。

(3) 宇佐漁協の多鈎釣漁（土佐湾中央部）による漁獲量は14.1トンで、前年比72%、平年比112%でした。

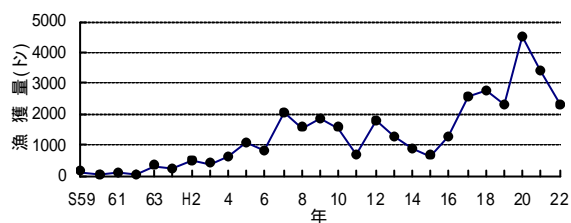


図 ウルメイワシ漁獲量の推移（中型まき網：宿毛湾）

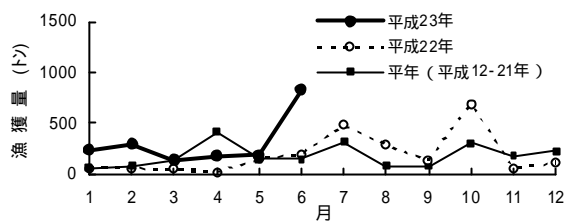


図 ウルメイワシ月別漁獲量の推移（中型まき網：宿毛湾）

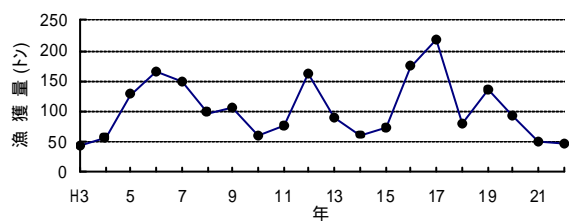


図 ウルメイワシ漁獲量の推移（窪津・椎名：大型定置網）

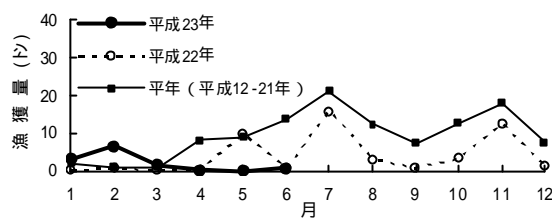


図 ウルメイワシ月別漁獲量の推移（窪津・椎名：大型定置網）

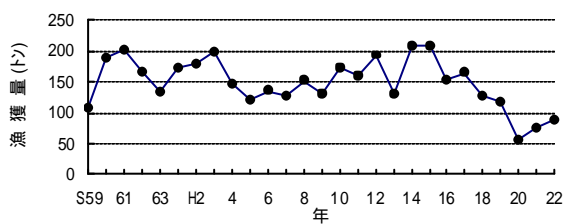


図 ウルメイワシ漁獲量の推移（宇佐：土佐湾中央部 多鈎釣）

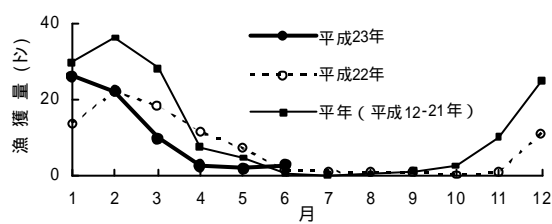


図 ウルメイワシ月別漁獲量の推移（宇佐：土佐湾中央部 多鈎釣）

2 周辺各県の経過

宮崎県：日向灘のまき網による1～6月の総漁獲量は3,112トンで、前年比291%、平年比138%でした。

愛媛県：豊後水道は南部海域を中心に漁場が形成され、まき網による4～6月の総漁獲量は2,001トンで、前年比424%、平年比370%でした。

和歌山県：紀伊水道外域東部から熊野灘における1そうまき網は、4～6月の総漁獲量が250トンで、前年比222%、平年比183%でした。

【漁況予測（平成23年8～12月）】

(1) 漁獲対象：0歳魚（平成23年生まれ）主体。

(2) 来遊水準：前年並から上回ると考えられます。

(参考) 前年(平成22年)8~12月のウルメイワシ漁獲量

宿毛湾の中型まき網: 1,276 トン

定置網(窪津・椎名合計): 21 トン

多鈎釣漁(宇佐漁協): 13 トン

説明:

ウルメイワシの資源は高水準で推移してきましたが、近年減少傾向がみられ始め、現在は水準は中位、動向は減少傾向と評価されています。例年、ウルメイワシの1歳魚は夏に寿命となって姿を消し、その後は0歳魚が漁獲の主体となります。今年の0歳魚は、高知県とその近隣海域において前年を上回る水準にあると考えられます。以上のことから、下半期の来遊水準は前年を上回る見込みです。

VI シラス

【漁況経過(平成23年4~6月)】

1 高知県

機船船曳網(安芸地区4水揚地・春野町・錦浦・田野浦7水揚地合計)による漁獲量は165.0トンで、前年比75%、平年比85%でした。4月はカタクチイワシとウルメイワシ、5月はカタクチイワシが主体でした。(1~3月はマイワシ主体にウルメイワシが混じりました)

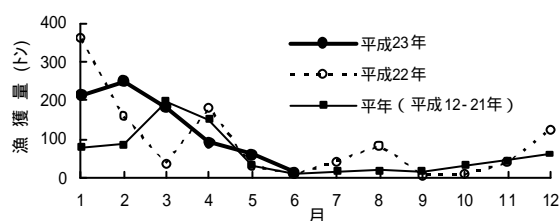
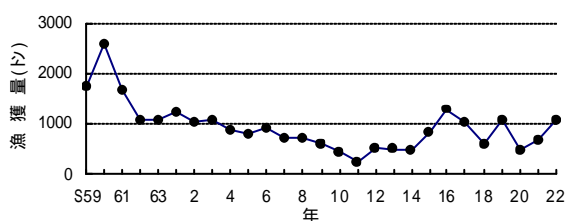


図 シラス漁獲量の推移(安芸地区、春野町、錦浦、田野浦計7漁協) 図 シラス月別漁獲量の推移(安芸地区、春野町、錦浦、田野浦計7漁協)

2 周辺各県の経過

宮崎県: 1~6月の総漁獲量は602トンで、前年比106%、平年比68%でした。

大分県: 佐伯湾における4~6月の漁獲量は4.4トンで、前年比45%、平年比6%でした。

徳島県: 紀伊水道内における4~6月の漁獲量は52トンで、前年比9%でした。